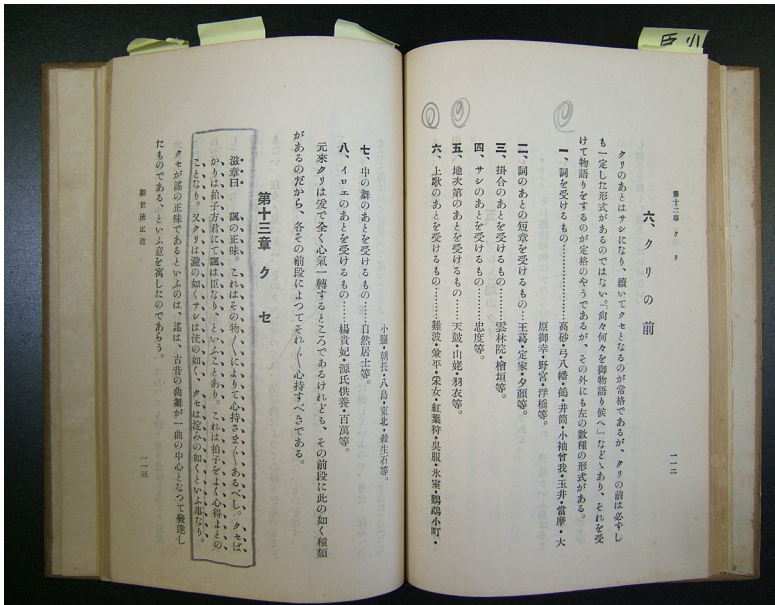


齋藤香村 『観世流の正道』

観世大夫十三代滋章の書（能名目十七段）を引用しつつ、謡曲の「小段」を説明する。名目十七段は「次第、名乗、道行、一声、サシコエ、下歌、上歌、問答、論義、クドキ、語り、クリ、クセ、サガリ端、ノット、祈、キリ」。写真下はクセの箇所。「クセばかりは拍子方君にて謡は臣なり、といふことあり。これは拍子をよく心得よとのことなり」とある。これは、上歌の箇所に引かれる「小謡は、謡は君にて拍子は臣なり」と対になった決まりの表現である。本書中、拍子への言及はこの程度のみ。



標題 内題：観世流の正道

標題紙：観世叢書第一編 観世流正道

奥附：観世流の正道

その他：観世流の正道（巻末・柱）、観世

叢書 観世流正道 第一編（題

簽

著者 奥附：齋藤芳之助

その他の場所：齋藤香村（標題紙）

出版 版次：第一版

出版地：東京

出版社：能楽書院

出版年：昭和4（1929）

その他の場所：—

形態 冊数：一冊 頁数：一九六頁

寸法：19×13（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 観世左近口述（標題紙）。